

非核の政府を 求める大阪の会

非核の政府を求める大阪の会 豊島 達哉 梅田 章二
 〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-3-4 (新谷町第3ビル 210号)
 TEL.06(6765)3032 FAX.06(6765)3033
 URL・https://hikaku-osaka.jp/
 E-mail・hikakuosaka@hotmail.com
 hikaku-osaka1986@kind.ocn.ne.jp

第211号 2022年9月1日

ニュース

被爆者し
ともに

核兵器のない 平和で

公正な世界を

人類と地球の未来のために



3年ぶりに広島、長崎で現地開催となった2022年原水爆禁止世界大会に大阪から110名の代表が参加しました。当会から、牛山一雄事務局員を派遣し、大会参加レポートを報告します。

8月4日から6日の日程で原水爆禁止世界大会（広島）が開催されました。

開会総会で世界大会実行委員会共同代表の野口邦和共同代表は、ロシアによるウクライナ侵略に触れ、プーチン大統領らによる核兵器使用の威嚇は核抑止論の危険性をまざまざと示したと指摘し、人類が核兵器の惨禍から免れる唯一の保証は禁止・廃絶しかないと訴えられました。日本被団協代表委員、箕牧智

之さんの来賓あいさつ、オーストラリア、アレクサンダー・クメンタ大使のゲストスピーチ、同志社大学の浜矩子教授の連帯あいさつと「平和の

波」開始宣言が行われました。続いて開催された国際会議は、米、英、露、ウクライナ、韓国、ベルギー、オーストラリア、ベトナム、マレーシア等々十数カ

国が参加（オンライン、DVD含む）して、セッションIからIIIに分けて2日間にわたり行われました。すべての発言内容を報告することは、紙面の制約上不可能なため、その一部のみ掲載します。

「セッションI」では、日本被団協事務局次長の児玉三智子さんが被爆者として歩んできた壮絶な人生を語り、この地獄の苦しみや世界のだれにも味あわせてはならないと国内外でその実相を語り訴え続けている活動を述べられ、世界で唯一の戦争被爆国であるわが国政府は、禁止条約に背を向け続けていると、現政権を批判し、明日

の世界を担う次世代に安心・安全な青い地球を残すのか、破滅の道を選ぶのか、いまその帰路に立たされている世界の人類の命と安全を守るのは、核兵器廃絶しかありません。実現に向けて共に行動しましょうと呼びかけられました。セッションIIでは、ロシア代表が、ロシアのウクライナ侵略について、ロシアとNATOの対立であり、ウクライナ人とロシア人だけでなく、世界的な影響を及ぼすものだと指摘し、今や多くの国が人類文明を何回も破壊するほどの核兵器を保有し、使用するシナリオはかつてなく現実味を帯びていると危惧されました。さらにロシアはウクライナで新しい型の核兵器をすでに使用している。それは、ジュネーブ条約やIAEAで禁止されている欧州最大のザポロジエ原発を、世界史上初めて重装備の軍隊で占拠したというものです。ここには、使用

済みプルトニウム239数十tを含む使用済み核燃料が保管されていて、ここを非核兵器で破壊すれば放射性物質を撒き散らす原爆を爆発させるのと同じで、長い半減期の放射性核種が欧州の広大な地域を汚染する可能性がある。軍事利用と平和利用の技術には区別がなく、すべてが危険だということ。そして世界大会の主要テーマに「被爆者とともに、核兵器も原発もない平和で公正な世界を」追加したいと述べられました。世界大会は、このあと各分野別に分科会や最終日のヒロシマデーで、広島宣言を採択し、開会しました。

【非核五項目】

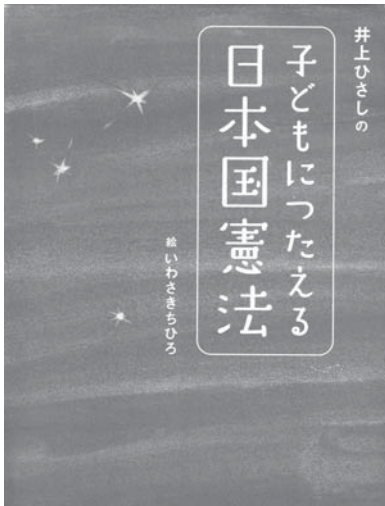
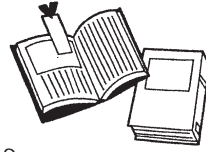
- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまででの合意にもとづいて国際連帯を強化する



第四回目は、憲法の書籍を紹介します。憲法を変えようとする政治勢力が国会のなかで三分の二を越えています。憲法論議が今後、活発になっていくでしょう。平和を守る”と言いつつ「戦争のできる憲法」に変えようとする狙いを明かにしていくことが大切です。今回、紹介するのは、井上ひさしさんの「子どもにつたえる日本国憲法」(絵いわさきちひろ)です。講談社の「シリーズ子どもたちの未来のために」の一冊です。井上ひさしさんは

非核・平和の本を

読みませんか！



作家で当時(2006年)日本ペンクラブの会長も務められていました。「はじめに」で井上しさしさんは、昭和二十年国民学校の生徒だったとき、昭和二十一年日本国憲法が公布されたときの体験を記されて、「この子どものと



き誇らしくていい気分を、なんとかしていまの子どもたちにも分けてあげたいと思つて、私はこの本を手がけました。」続いて「絵本憲法のころ」で次のように述べられます。「これだけは読んでおいてほしい」と思うとして、「前文と第九条を、小学生にも読めるようにやさしくしてみました。いわさきちひろさんの絵が加わると、なんだか詩の絵本のような感じがするからふしぎです」と本書籍の特徴を述べられています。目次は、はじめに、絵本憲法のころ、お話し憲法つて、つまりこういうこと、あとがき、付録・日本国憲法の全文、56頁です。

大阪における国民平和

1967年の平和行進：ベトナムに広島・長崎をくりかえすの声をあげて(629、7.1)



池田市公会堂前(6.29)

1967年5月、ラッセル提唱のベトナムにおける戦争犯罪を裁く国際法廷はアメリカに有罪判決を下しました。8月の東京法廷では日本政府、財界に対して侵略共犯を裁きました。米軍の北爆再開に安保放棄中央実行委員会、社会党・総評などが結成した「原子力潜水艦寄港阻止全国実行委員会」が統一集会を7月9日砂川で開催されました。前年の9月4日横須賀での集



子どもたちに見送られながら香里団地を行進



▲枚方市役所終結集会(7.1)

会・デモに続くものでした。1967年の国民平和行進は、6月11日第13回世界大会をめざし東京へ向かう行進で広島を出発しました。大阪の行進は、6月29日から7月1日の三日間の行進でした。参加団体132団体、参加人員のべ13136人、ベトナム人民支援ベナ全禁止、被爆者救援、ベトナムに広島・長崎をくりかえすな”のローガンを掲げて、第13回世界大会成功をめざしてあるきました。6月29日池田市役所前で兵庫県から引き継ぎ、池田市役所前では大阪原水協代表をはじめ労働者、市民、学生など120人が出迎えました。その後池田↓豊中↓吹田。30日は吹田から長柄橋↓中之島公園↓



ントを寄せた団体40団体でした。行進は「ベトナム侵略反対、核戦争阻止、核兵器完

おこなわれました。
 “平和の壁に花一輪を”をテーマ第70回関西平和美術展が7月27〜31日、堺市立文化館で行われました。1953年に始められた“関美展”は、70回を迎える今年度は、今日の情勢をうけて特

暑い夏の非核・平和の各地で多彩に展開

ロシアによるウクライナ侵攻、核共有論、九条破壊の憲法改正論などききな臭い風が吹く中で、各地で多彩な非核・平和のとりくみが

東野田↓関目↓都島本通り↓赤川三丁目↓今市↓守口。7月1日は門真↓寝屋川↓枚方を経て京阪八幡駅前が京都に引き継がれました。(写真は田村茂美氏提供)
 ※1968年の平和行進は府的行進は実施せず。北区・岸和田地域は実施)



高校生が描いた原爆展
 ウクライナに平和を！



別展示「ヒロシマの高校生が描いた原爆の絵」、企画展「ウクライナに平和を！」に多くの方々が鑑賞されました。



平和っていいな 堺で学び たのしもう をキャッチフレーズに「堺平和のための戦争展2022」が7月30〜31日、サンスクエア堺で取り组まれました。実行委員会主催で堺市堺市教育委員会、朝日新聞社が後援する地元に着した恒例の取り組みです。
 今年度は「おこりじぞう」の映画と作者四國五郎氏のご子息のお話を中心に多彩な取り組みが参加団体によって企画されました。



今年で22回目の7・26田辺模擬原爆追悼のつどいが、オンラインを併用して、東住吉区田辺の恩楽寺で開催されました。
 ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下の訓練として全国に50発(内一発は、海上投棄)も落とされた模擬原爆は、多くの犠牲者を出し、ここ田辺でも7名の死者を含む多数の方々が犠牲になりました。今年も、長く近隣の小中学生たちに体験を語り継ぐ活動をされています。

7・26田辺の模擬原爆追悼のつどい開かる



今年97歳の龍野繁子と当時4歳だった松本道明さんが体験を話され、戦争の恐ろしさ、平和の大切さをこれからも語り継いでいくとの決意を述べ、近隣の小・中学生は、体験談を聞いたり、平和学習で、学んだことを後輩たちにつないでいきたいと決意を語りました。今年、敦賀市など他の都市の体験者とも結んで開催されるなどオンラインならではの新たな広がりを感じたつどいでした。(事務局)

大阪市中央区の妙徳寺で「平和の鐘つき」が開催されました。この鐘つきは、原水爆禁止世界大会に参加できない人が、大阪の地で原爆犠牲者を追悼するために、原爆が落とされた8月6日原爆投下時間の8時15分に合

大阪市中央区の妙徳寺で「平和の鐘つき」が開催されました。この鐘つきは、原水爆禁止世界大会に参加できない人が、大阪の地で原爆犠牲者を追悼するために、原爆が落とされた8月6日原爆投下時間の8時15分に合

平和の鐘つき & からほりピースフェスタ

原爆展や、ピースコンサートなど多彩な催しが行われてきました。今年、ウクライナ戦争平和展や核兵器禁止条約発効賛同署名などが行われました。

わせて、毎年行われ、今年で15回目を数えます。大阪宗教学者平和協議会の佐野理事長のあいさつの後、参加者が犠牲者の追悼と平和を願って鐘をつきました。12年前からは、「からほりピースフェスタ」とコラボ、

以上経って修復された被爆ギターの演奏などに耳を傾け、あの日に想いを寄せ、平和への願いを新たにしました。

新任世話人紹介

中原美江さん

新日本婦人の会大阪府本部副会長の中原美江です。今回初めて担当になりました。「非核」の運動には、労働組合や青年運動で出会い、地域や駅前などで署名活動にとりくんできました。20代で初めて広島の世界大会に参加した時、全国そして海外からも参加している多くの人々を目にして、「核兵器をなくしたいと行動する人がこんなにたくさんいる、すごい」と感動、私の力は小さいけれど、世界の大きな運動と連帯しているんだと思います。それから30数年、核兵器禁止と平和を求める被爆者や世界中の人々、私たちの草の根

の運動が実り、昨年ついに核兵器禁止条約が発効し、核兵器はついに「違法」に、歴史が動いたと実感しました。ところが、ロシアがウクライナを侵略し、核兵器で「威嚇」、それに乗じて自民党や維新の会などは「核共有」を主張、本当に許せない。この思いを力に声を上げ続けていく、子どもたちに青い地球を手渡したい、何ひとつあきらめられないから、核兵器のない世界、憲法生かし、平和でジェンダー平等の社会めざす新婦人はこの秋創立60年をむかえます。さらに大きな新婦人へへ班から次世代とともに活動をすすめていきたいです。よろしくお願ひします。

核なき世界をめざして⑨

2015年「ヒバクシヤ遊説inヨーロッパ」パリで「アベ政治許さない」集会

安倍晋三元首相の

「国葬」を実施することが閣議決定されました。「国葬」という形で国民に弔意を強制してよいのか、安倍政治にはいろいろな評価があるのに一面的な礼賛を行うことで安倍政治の批判を許さない空気がつくられるのではないかと、国民の間には疑問の声が沸き起こっています。国民の意見が大きく分かれているのに、国民の税金を使う行事を国会審議することもなく閣議決定だけで決めてよいのか、民主主義の根本が問われています。

安倍政治については「海外からも高い評価」がされているなどと報道され、それが「国葬」を行う理由の一つに挙げられています。でも、私が2015年・2016年にヨーロッパで見た安倍政治への評価は全く違うものでした。スペインでもフランスでもドイツでもイギリスでも、市民団体や報道関係の方から「アベ独裁政治」への不安と懸念が語られ、鋭い質問が寄せられました。



▲「日本の戦争法に反対する集会」(2015年パリ)

安保関連法(戦争法)が強行採決された2015年9月19日。その2週間後に行われた「ヒバクシヤ遊説inヨーロッパ」(主催：日本原水協)の代表団に参加させていただきましたが、10月10日には、「フランス平和運動」(歴史ある平和運動団体)の皆さんとパリ市内の事務所で交流した後、「日本の戦争法に反対する集会」に参加したのでした。

非核意見広告



の賛同をお願いします。申し込みは当会ホームページをご覧ください。



さん(東京)と木村さん(千葉)。私も、日本での戦争法反対運動の高揚を話しました。大きな拍手に答えて、「パリでも戦争法への抗議の声が上がっていることに、とても励まされました。戦争法廃止まで、力を合わせましょう」と、ハッピーを着て呼びかけました。安倍元首相の「国葬」で、あの時の怒りを「なかったこと」にはできません。これ以上、民主主義を破壊させるわけにはいかないのです。長尾ゆり(非核の政府を求める大阪の会世話人)